

2022年3月28日 Vol.194

上場承認の取り消しが相次いだ3月のIPO

桜咲く季節となり、株式相場にも多少明るさが感じられるようになってきましたが、中国では新型コロナの感染が再拡大するなどコロナ禍も収束までまだ道半ば、宇露戦争も長期化の様相が見られる中なのでこの先が決して楽観視できる状況ではない筈です。円安の進展、原油の高騰、更にはインフレ抑制に対応した米国の政策金利の引き上げなど株式市場を取り巻く環境は厳しい冬の時代入りを示唆しています。国内外の経済情勢や社会情勢を横目に株式市場だけは下振れ局面からの戻り相場を演じたことで、なおも中長期的な上昇トレンドに望みをつないでおられる投資家の安堵感が伝わってきそうです。

3月上旬に見られた日経平均やTOPIXの大幅調整はIPO相場にも少なからずマイナスの影響をもたらしたようです。2月3日から始まった今年のIPO銘柄は23日のTORICO(7138)まで12。このうち初値が公開価格を下回った銘柄が4銘柄、10%以下の上昇に留まった銘柄が2銘柄と半分を占めやや冴えないスタートとなっております。残りの6銘柄は初値が公開価格を40%以上上回っておりまずは順調なスタートになったようですが、その後の株価をチェックするとエッジテクノロジー(4268・上場後の安値412円から1ヶ月間で1230円まで3倍化)以外は大きく値を下げるなどさほど順調だとは言いがたいようです。これはIPO市場参加者の多くが短期指向で市場環境の悪さを懸念していることの表れだろうと推察されます。こうした状況を反映してか3月に上場予定していた住信ネット銀行など3銘柄の上場承認が取り消され3月のIPO銘柄数は当初の予定だった11から8銘柄になってしまいました。昨年3月のIPO銘柄数が13でしたので、これを5銘柄下回ることとなります。3月25日現在で12銘柄についてチェックすると初値を時価が上回っている銘柄は4銘柄に過ぎず、8銘柄が値下がりしている状況です。これら8銘柄は平均して初値から26%の値下がりとなっています。但し、上場後の安値と比べると12銘柄平均で32%の上昇率となっており、直近の反転相場に連動した動きが見られます。

本日、マザーズ市場に上場してきたメンタルヘルステクノロジーズ(9218)は産業医クラウドの名称で企業向けメンタルヘルスケアソリューション事業を展開。公開価格630円に対して初値は880円で約40%の上昇で始まった。コロナ禍で混沌とする社会情勢の中で心のケアが求められており、時流に沿ったビジネスだと期待されての評価がなされているようだ。3月は残り2銘柄。そしていよいよ東証市場改革後のIPOが4月4日からスタートすることになる。グロース市場にIPOを果たすことになったセカンドサイトアナリティカ(5028)がその第1号。4月7日のエフビー介護サービス(9220)はスタンダード市場へのIPO第1号となる。今後はスタンダード市場やグロース市場といった新たな市場区分において取引される銘柄が続々と登場する予定。上場承認取り消しが相次いだまだ肌寒かった3月から投資家各位は暖くなる春のIPO市場に大いに関心を寄せて頂きたい。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)